



在德法各別封鎖文之一書は柏林大學
 法科之於今(四)博士 doctor juris utriusque
 之學位を受給するに於て其の要件は
 裁判之予を論述するに於て固より純粹
 學理上より立論するに在りて實地之政略は直
 接之關係非之是也(書中註)現行之
 法律裁判之權限を行政法之公法學者特
 マルテンス・コイニヒ等が攻撃し且政務政府之
 訓令之中我條的に接觸する者有之者予
 之論及於此(先)以參考之為一冊呈
 上(後)尤之該書は學位授与式差違(此)為
 前編のみを出版するに後編は多分
 來月中に出版可なり(後)編は(先)領
 予裁判之有害(其)差違(其)極論(其)



且欲求之治分法權論者其改鑄子降也
亦以爲之者板防其之也此一冊謹呈可降

敬白

七月二十日

午煥 謹啟

外務大臣大隈伯閣下